

事業名	民生委員等活動支援事業（民生委員協力員制度） [担当：福祉部 福祉総務課]
地域福祉計画	基本目標2 地域で支えあう環境づくりの促進 2) 地域での見守りと助け合いネットワークの充実 基本目標3 地域福祉を支える担い手の育成・確保 2) 多様な担い手の育成
総合計画 (参考掲載)	⑤福祉 1 高齢者福祉の充実 4) 地域ケアの推進
<p>1 事業内容</p> <p>〈目的〉 民生委員・児童委員（主任児童委員を除く。以下「民生委員」という。）の活動における負担を軽減し、その担い手となる人材を育成することにより、地域福祉の推進を図る。</p> <p>〈事業内容〉 民生委員の負担軽減と地域の見守り体制の強化を図るため、民生委員の必要に応じてその活動をサポートする民生委員協力員を配置する。 ※平成30年10月：民生委員協力員制度創設 ※民生委員協力員の活動内容 見守り活動、敬老大会等の地域福祉活動 （民生委員が協力を必要とする内容に限る）</p>	
<p>2 事業実績</p> <p>〈決算見込額〉 739,200円 (@1,200円×616人月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置状況 51人 (R4.3.1現在) ・活動状況 *R4.2月末時点での暫定値、[] 内はR2年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 活動日数 平均3.2日/月 [平均3.0日/月] 活動件数 平均3.6件/月 [平均3.4件/月] 民生委員との連絡調整回数 平均3.0回/月 [平均2.5回/月] 	

<p>3 事業担当課による自己評価</p> <p>本年3月1日時点の民生委員協力員は51人で、昨年度同時期より2人増加している。</p> <p>令和2年より続く新型コロナウイルス感染症の影響で、2年連続敬老大会が実施されなかったが、日常的な見守り活動が感染対策をとってしっかり行われたことから、活動日数、件数ともに前年度より増加している。</p> <p>協力員を置いている民生委員及び地区会長からは「欠員地域での見守り活動をしてくれるので助かる」、「退任した民生委員が協力員になってくれているので心強い」、「異性宅への訪問に同行してもらうことで活動の幅が広がった」、「見守り活動をしてくれるので負担軽減になった」などの意見があり、本制度の必要性と活動について周知が図られるとともに必要に応じた活用がなされているものととらえている。</p> <p>また、副次的効果として、民生委員協力員を経て次の民生委員に就任したケースもあったことから、今後の担い手育成・確保に有効であると考えられる。</p> <p>これまでも「民生委員は大変」というイメージを持たれる傾向にあり、地域福祉の担い手の掘り起こしは急務であることから、市としても本制度の導入をはじめ負担軽減策を講じるよう努めている。</p> <p>今後も地域に対して広く本制度の周知に努めるほか、民生委員制度そのものが持続可能な制度となるよう、活動にかかる負担を様々な面で支援するよう努め、ボランティアを原則とする民生委員制度の抜本的な見直しを国・県に要望していく必要があると考える。</p>
<p>本事業に対する評価・意見・改善点等 (地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか)</p>

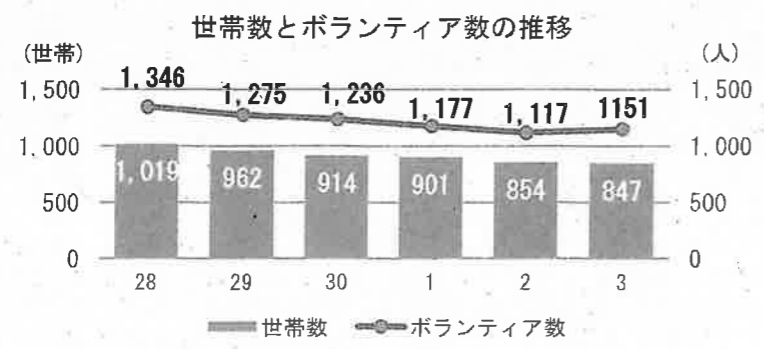
令和3年度地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくり事業における対象事業評価シート

事業名	弘前市社会福祉協議会除雪支援事業 [担当：福祉部 福祉総務課]
地域福祉計画	基本目標2 地域で支えあう環境づくりの促進 2) 地域での見守りと助け合いネットワークの充実
総合計画 (参考掲載)	—

1 事業内容
 〈目的〉
 自力での除雪作業が困難で、資力的に業者等に依頼することも困難な高齢者や障がい者世帯等を支援するために、弘前市社会福祉協議会が実施する本事業に要する経費の一部の支援により、市の雪対策の一環として位置付けるとともに、地域福祉活動の推進を図る。

〈事業内容〉
 弘前市社会福祉協議会が地区社会福祉協議会に対して実施する助成事業に対し補助金の交付により支援。
 交付額：1世帯当たり1,000円×実施世帯数又は1,000,000円のいずれか少ない額
 ※地区社協の取組内容
 以下の①～④をすべて満たす対象世帯（①高齢者、母子・寡婦、身体障がい者世帯で自力での除雪作業が困難な世帯、②資力的に除雪作業を業者依頼するのが困難な世帯、③当該世帯が所有する戸建て住宅に居住する世帯、④近隣に親戚等がなく、援助が見込めない世帯）に対し、利用者の負担なしで、除雪又は車道除雪等により当該世帯の間口に堆積した雪を地区社会福祉協議会のボランティアが除去し、生活道路を確保する。

2 事業実績 〈決算見込額〉847,000円
 *R4.3.1現在の暫定値、 []内はR2年度の状況
 ・対象世帯数 847世帯 [852世帯]
 ・ボランティア数 1,151人 [1,117人]
 ・延実施回数 集計中 [10,001回]
 ・延作業人数 集計中 [13,847人]
 ・未実施地区数 1地区 [和徳南地区]



3 事業担当課による自己評価
 今冬も集中的な降雪が何度かあり、まとまった降雪があると市民からの問い合わせがあることから、高齢や障がいにより除雪が困難な世帯は相当数あると推察される。市内全地区において事業実施することを目標としているが、除雪ボランティアがいないという理由から、実施していない1地区社協に加え、町会単位でみると対応できない地域もある。
 また、地区社協からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業に参加するボランティアの確保が一層困難になっているとの声が聞かれた。
 市では、弘前市社会福祉協議会と市役所内の関係課が今冬の体制を確認する「雪処理に関する情報交換会」を毎年度開催するとともに、年末年始には、除雪困難者からの相談に備え当番制を置いている(相談実績なし)。道路維持課では、令和元年度から令和3年度までの3か年において、市内3地区において取り組む道路除雪に伴う寄せ雪の除雪支援事業を実施しており、効果や課題を注視することとしている。
 令和3年度には、その成果の一つとして、これまで実施していなかったうちの1地区において除雪ボランティアの登録があったことから、引き続き除雪支援事業を実施していない地域に対する除排雪における支え合いの仕組みづくりを目指していきたいと考える。
 また、市社協においても、スポーツ団体等による除雪ボランティア活動などもあったことから、各種団体との連携構築によって、除雪にかかる継続的な取り組みにできるよう検討を重ねていきたい。

本事業に対する評価・意見・改善点等
 (地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか)

令和3年度地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくり事業
における対象事業評価シート

事業名	ほのぼのコミュニティ21推進事業 [担当：福祉部 福祉総務課]
地域福祉計画	基本目標2 地域で支えあう環境づくりの促進 2) 地域での見守りと助け合いネットワークの充実
総合計画 (参考掲載)	⑤福祉 1 高齢者福祉の充実 4) 地域ケアの推進
<p>1 事業内容</p> <p>〈目的〉 在宅のひとり暮らし高齢者や障がい者等が、住み慣れた地域で安心して暮らせるような地域づくりに向けた体制整備を図る。</p> <p>〈事業内容〉 住民ボランティアである「ほのぼの交流協力員」が2～3名程度のグループを編成して、在宅ひとり暮らし高齢者等の家を訪問し交流することにより、孤独感を解消しながら、安否確認を行う見守り活動を実施する。</p>	
<p>2 事業実績 〈決算見込額〉225,000円</p> <p>*R4.2.1現在の暫定値、[]内はR2年度の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委託先 弘前市社会福祉協議会 ・訪問対象世帯数 670世帯[677世帯] ・ほのぼの交流協力員 470人[507人] ・グループ数 320グループ[342グループ] ・未実施地区数 4地区[4地区] 	

3 事業担当課による自己評価

住民ボランティアがいないため未実施となっている地区があることから、弘前市社会福祉協議会と継続して協議を行い実態把握に努め、地域で活動できる人材の発掘や確保に取り組む必要がある。

地区社協からは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、事業に参加するボランティアの確保が一層困難になっているとの声が聞かれた。

令和3年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響で、感染防止に配慮した活動が求められ、例年通りの活動を行うことは難しい状況にあったものの、訪問回数等においては一定の回数を維持できている。

以前より、民生委員活動との重複が指摘されることがあるが、担い手として民生委員以外の地域住民の参加が得られており、地域共生社会の実現を目指す中、人材育成の観点からも意義のある事業と考えている。

今後も高齢化が進むと推測される中、地域の高齢者等の見守りにあたっては、様々な仕組みを活用して重層的に行い、異変を発見できる機会としていきたい。

本事業に対する評価・意見・改善点等
(地域福祉計画に掲げる目標に対し、本事業がどのように貢献しているか)